

## 雪つぶて

かなしい事なんかありやしない  
恋しいことなんかあるものか  
さう思ひながらもあなたのやさしい返事を待つていた  
まぶしいやうな雪の朝 路傍で僕は佇んでゐた  
僕のうしろを馬車が通つた  
僕のうしろを人が通つた  
でも 閉ざされたままの白い二階の窓だった  
強烈なものを信じ  
自分がいいのだと思ひながら  
昨夜までのあたたかいあなたの眼ざしと声をそのまま  
僕はその時も待つていた  
明るい日はキラキラキラキラかがやいて  
するどく風がかすめてすぎた  
閉ざされたままの二階の窓  
僕は雪つぶてをつくつて いきなり どすんと投げつけた  
こなごなの窓  
僕は逃げた  
さうしてあなたをあきらめた